

セミナー開催報告

一般社団法人
日本精密板金DX工業会 主催 第1回 DXセミナー

精密板金の 勝ち筋2026

ー 常任理事による現状課題とDXサクセス事例のご紹介 ー

AI・DX・ロボット活用による次世代精密板金工場の未来戦略

第1回 DX セミナー : 東京日本橋かずさや

2026.06.19



一般社団法人 日本精密板金DX工業会

1. 開催概要

会の名称	第1回DXセミナー「精密板金の勝ち筋2026」
------	-------------------------

開催日時	2026年 6月19日（金） 14:00～16:50
------	----------------------------

開催場所	東京日本橋 ホテルかずさや
------	---------------

参加者	日本精密板金DX工業会 正会員、賛助会員、一般参加者
-----	----------------------------

プログラム

1. 代表理事挨拶

日本精密板金DX工業会 代表理事 高木 俊郎 様

2. 会長挨拶

日本精密板金DX工業会 会長
岡部工業株式会社 取締役社長 岡部 浩章 様

3. 基調講演

① AI活用による精密板金の未来構想について

日本精密板金DX工業会 副会長
森精工株式会社 代表取締役社長 森 俊幸 様

② 生産管理システムの活用と成功のポイント

日本精密板金DX工業会 DX推進常任理事
株式会社林製作所 代表取締役社長 林 司 様

③ ロボット活用による溶接イノベーション

日本精密板金DX工業会 DX推進常任理事代理
株式会社ツガワ 板金生産部 部長 堺田 悦章 様

4. 特別スピーチ

DX推進の重要事項と今後の展望について

日本精密板金DX工業会 グローバル常任理事
JINPAO PRECISION INDUSTRY CO.,LTD. CEO 鍾 國松 様（ジョン社長 様）

5. 閉会

本日配布の「精密板金2030」の概要について

日本精密板金DX工業会 代表理事 高木 俊郎 様

2. 参加者

会員	一般	合計
21社 22名	11社 12名	32社 34名

【正副会長・常任理事・正会員】

<会長>

岡部工業株式会社 代表取締役社長 岡部 浩章 様

<副会長>

株式会社SANMATSU 代表取締役社長 田名部 徹朗 様

森精工株式会社 代表取締役社長 森 俊幸 様

島田工業株式会社 代表取締役社長 島田 渉 様

<グローバル常任理事>

JINPAO PRECISION INDUSTRY CO.,LTD. CEO 鍾 國松 様 (ジョン社長 様)

<DX推進常任理事>

株式会社林製作所 代表取締役社長 林 司 様

株式会社ツガワ 代表取締役社長 駒田 義和 様

株式会社エイワ機工 代表取締役 三浦 正広 様

株式会社キョウユウ技研 課長 片瀬 晋太郎 様

株式会社小谷製作所 常務取締役 小谷 和俊 様

株式会社昭和 専務取締役 黒木 雄介 様

株式会社スズミ 代表取締役社長 鈴木 雄一 様

有限会社タナカ製作所 事業戦略室 田口 秀昭 様

株式会社ツジデ 代表取締役社長 辻出 浩一 様

株式会社フジプロテック 代表取締役社長 赤井 智則 様

株式会社マカベ 代表取締役社長 荒川 祥 様

株式会社モハラテクニカ 代表取締役社長 茂原 亮太 様

<国際戦略常任理事>

有限会社小林製作所 代表取締役社長 小林 裕明 様

<正会員>

赤石工業株式会社 取締役工場長 渡邊 豪 様

株式会社ダイアン 代表取締役 岡田 巧 様

株式会社ロング 代表取締役 長井 勉 様

株式会社ロング 取締役 長井 将 様

【一般参加者】

市川絞工業株式会社 代表取締役 市川 慶一 様

ソウテックコーポレーション(株) 代表取締役 三村 啓 様

サン工業株式会社 後藤 潤也 様

株式会社タキノ工業所 田中 将 様

株式会社東京ボックス 代表取締役 磯貝 敏 様

株式会社中沢工業所 代表取締役 中澤 志光 様

株式会社ナカツー 代表取締役 加藤 信之 様

有限会社西口ベンダー工業 西口 巧真 様

有限会社西口ベンダー工業 西口 和来 様

株式会社花菱精板工業 代表取締役 平田 伸治 様

株式会社福田工業 代表取締役 福田 吉隆 様

株式会社RDD 代表取締役 須藤 光昭 様

3.開催サマリー

一般社団法人 日本精密板金DX工業会は、2026年6月19日（金）、ホテルかずさやにおいて、「精密板金の勝ち筋 2026」DXセミナーを開催しました。

本セミナーは、AI・DX・ロボット活用による次世代精密板金工場の未来戦略をテーマに、各社の実践事例を共有し、今後のDX推進の方向性を考えることを目的として実施したものです。

当日は、代表理事挨拶、会長挨拶に続き、3名の講演者による基調講演を行いました。その後、当初予定していたパネルディスカッションの内容を一部変更し、タイより来日されたジンパオ社ジョン社長様より、同社のDX推進、人材育成、今後の事業展望についてご講演いただきました。最後に、高木代表理事より、当日配布した冊子「精密板金2030」の概要説明がありました。

4.開催風景



5. 基調講演 ①

AI活用による精密板金の未来構想について

日本精密板金DX工業会 副会長

森精工株式会社 代表取締役社長

森 俊幸 様



森社長様の講演では、「夢工場の実現」をテーマに、精密板金工場がAI時代にどのように進化していくべきかについて、森精工株式会社における長年のIT化の歩みと、今後のAI活用構想が紹介されました。

講演では、50年前の工場では図面、作業指示、記録などが紙を中心に管理されており、情報が見えにくく、つながりにくく、活用しにくいという課題があったことが示されました。

その後、森精工では40年にわたりIT化を進め、2026年現在では、設備、現場端末、CAD/CAM、生産管理システムなどを活用した工場運営が行われていることが紹介されました。

一方で、IT化を進めてもなお、見積り、フォーキャスト対応、品質分析など、人の経験や判断に依存する領域には課題が残っていることが示されました。

これらの課題に対し、企業専用AI、AIプラットフォーム、サイバー工場長といった構想により、現実の工場データとAIを接続し、人とAIが協力しながら工場を進化させていく将来像が提示されました。

特に、AIプラットフォーム「alfaDOCK-Cyber」を通じて、今日の現実工場と明日のAI活用工場をつなぐ構想が紹介されました。

AIは人に代わるものではなく、人の判断を支援し、経験や知識を拡張する存在として位置づけられています。

講演の結びでは、「夢工場」とは、人とAIが協力し、進化し続ける工場であることが示されました。

これは、精密板金業界が今後競争力を高めていくための重要な方向性であり、DX工業会が目指す未来像とも重なる内容でした。

6. 基調講演 ②

生産管理システムの活用と成功のポイント

日本精密板金DX工業会 DX推進常任理事

株式会社林製作所 代表取締役社長 林 司 様



林社長様の講演では、多品種少量生産を特徴とする精密板金工場において、生産管理システムをどのように活用すべきか、またAI時代にふさわしい生産管理の考え方について説明がありました。

林製作所では、月産約5,000種類、平均ロット20個、取引先150社という、多品種少量生産の実態が紹介されました。

このような工場では、短納期、特急対応、割込み、単発品、材料・端材管理、在庫管理など多くの変動要素があり、精密板金工場の生産管理は非常に難しいという問題提起がなされました。

講演では、現在多くの企業で使用されている生産管理システムには、長年使われてきた安心感や使いやすさがある一方、時代の変化に対応するには限界があることが指摘されました。

そのうえで、従来の「生産管理の常識」から脱却し、クラウド型、ブラウザベース、端末非依存、AIとの親和性を備えた今の時代に適合した生産管理の考え方が重要であると説明されました。

また、多品種少量生産において、すべての製品データ・生産データを完璧に管理することは現実的に困難であり、管理したい情報に優先順位をつけ、入力と出力のバランスポイントを見つけることが重要であると説明されました。

さらに、AI、RPA、アプリを活用することで、人手による入力負担を抑えながら、より多くの情報を活用できる可能性が示されました。

生産管理システムだけですべてを実現しようとするのではなく、外部アプリ、図面管理、見積、CAD、MES、検査、AIエージェントなどを連携させ、自律運用へ進化させていく考え方が紹介されました。

林様の講演は、精密板金工場における生産管理の現実を踏まえたうえで、AI時代に向けた実践的な運用の方向性を示す内容でした。

7. 基調講演 ③

ロボット活用による溶接イノベーション

日本精密板金DX工業会 DX推進常任理事代理
株式会社ツガワ 板金生産部 部長 堺田 悦章 様



堺田部長様の講演では、株式会社ツガワにおける溶接工程の自動화事例として、alfaJULIA導入による溶接イノベーションが紹介されました。

半導体市場の急拡大により受注が増加する一方、同社では溶接工程が大きなボトルネックとなっていました。

人材確保、技能習得、作業時間、品質ばらつきといった課題に対し、二戸工場ではalfaJULIA一号機を導入した結果、タクト短縮、品質安定、残業削減などの成果が得られました。

その後、佐世保工場では2号機・3号機を導入し、経験者がいない新天地においても自動化設備を活用することで経営目標を達成しました。

さらに青森新工場では、自動補正機能、スライドレール、フィラー機構などを備えた4号機を導入し、さらなる自動化工場の実現へ取り組んでいます。

堺田様は、alfaJULIAを単なる溶接機ではなく、ツガワにとっての経営戦略設備であると位置づけました。

溶接工程が変われば工場が変わり、工場が変われば企業が変わるというメッセージは、人材不足や技能継承に悩む精密板金業界にとって、ロボット活用の有効性を示す内容でした。

8. ジンパオ社 鍾 國松 様（ジョン社長 様） 特別スピーチ



はじめに、ジンパオ社の現状と今後の次世代工場構想を紹介する動画が上映されました。動画では、同社が長年にわたりデジタル化と自動化を推進し、グローバルな製造ネットワークと高度な生産体制を構築してきたこと、またAI活用による次世代工場の方向性が示されました。

動画上映後、ジョン社長様より、ジンパオ社の現在の事業状況と今後の成長戦略についてスピーチがありました。現在、同社の主力製品は、航空機関連とAI関連が主軸であり、サーバーラックを中心とした大量生産の仕事が大きく増加する中で、史上空前ともいえる売上規模に達している一方、同社の基本ポリシーはあくまで多品種少量生産にあるとの説明がありました。

ジンパオ社がここまで成長してきた大きな要因は、デジタル化と自動化にあります。同社は成長スピードが非常に速く、毎年のように変化する事業環境に合わせて、工場の拡張、設備投資、運営方法を進化させてきました。現在の好調な売上も、こうした取り組みの積み重ねによるものであり、今後この成長を継続するには、さらにAI化を進めることが不可欠であると述べられました。一方で、現在の好調な状況の中にも大きな危機があると指摘されました。特に注意すべきは中国の動向です。現在は中国からアジア各国へ製造がシフトする流れがありますが、中国国内には、他のアジア諸国が容易にまねできない巨大で強固なサプライチェーンがあります。今後、政治的な状況が変化すれば、現在アジア各国へ移っている大量生産の仕事が再び中国へ戻る可能性があるとの危機感が示されました。そのうえで、ジョン社長様は「危機の裏側にはチャンスがある」と述べられました。大量生産は状況次第で中国へ戻るリスクがありますが、多品種少量生産は簡単には戻りにくく、継続的な仕事として残りやすい領域です。多品種少量生産は段取りや判断業務が多いため、効率化にはAI化が不可欠であり、今後のジンパオ社の大きな柱になるとの考えが示されました。また、EV化の流れやEVプレーンなど、新しい産業領域への挑戦についても言及がありました。こうした未知の分野に対応するには、製造技術、デジタル化、自動化、AI化、人材育成を含めた総合的な企業体力が必要であり、その力を備えることがジンパオ社の今後の戦略であると説明されました。

ジョン社長様は、ジンパオ社の成長戦略は、AI化を軸に多品種少量生産の競争力を高め、EVや次世代航空機など新しい産業分野へ挑戦していくことであると述べられました。その実現には若い社員への継続的な教育が不可欠であり、同社では大学とも連携しながら、社内外に複数の教育機関を設け、人材育成に力を入れていることが紹介されました。

最後に、ジョン社長様は「Crisis into Opportunity」、すなわち危機をチャンスに変えるという考え方を強調されました。将来起こり得る変化を見据え、それを次の成長機会へ変えていく姿勢こそが、ジンパオ社の成長を支える重要な考え方であるとのメッセージが示されました。

9. 高木代表理事による「精密板金2030」紹介

高木代表理事からは、当日配布した冊子「精密板金2030」について、その概要説明がありました。同冊子は、日本精密板金DX工業会の活動を通じて得られた知見と、高木代表理事自身の経験をもとに、日本製造業と精密板金業界の未来像をまとめたものです。

説明では、冊子の詳細については各自で持ち帰って読んでいただきたいとの前置きのうえ、日本精密板金DX工業会の誕生、日本製造業の誇り、失われた30年からの再起動、日本精密板金の優位性、AIとの出会い、alfaDOCK-Cyber、Cyber Physical Factory、提案型エンジニアリング工場、2030年の未来工場といった主要テーマが紹介されました。

特に印象的だったのは、この冊子が、高木代表理事が4年にわたりChatGPTに蓄積してきた自身の見解をもとに、AIを活用して作成され、校正を含めてわずか4時間で完成したという点です。これは、今回のセミナー全体を通じた重要テーマである「企業専用ナレッジデータベースの構築」と、それを活用して生産性を高めるAIエージェントの働きを、実際に示す事例ともいえるものでした。

「精密板金2030」は、AIを単なる効率化ツールとしてではなく、企業に蓄積された知見を活用し、未来の構想を具体化するためのパートナーとして位置づける内容であり、DX工業会が目指す次世代精密板金工場の方向性を象徴する冊子として紹介されました。

10. 総括

今回のDXセミナーでは、AI、生産管理、ロボット溶接という3つの切り口から、精密板金工場の未来像と実践事例が示されました。さらに、ジンパオ社ジョン社長様のスピーチでは、グローバル製造ネットワーク、DX、人材育成、挑戦する企業文化、サプライチェーン変化への対応が語られました。

森様の講演では、人とAIが協力しながら進化し続ける「夢工場」の未来像が示されました。林様の講演では、多品種少量生産における生産管理の現実を踏まえ、Fit to Standard、自律運用、AI・RPA・アプリ活用の重要性が示されました。堺田様の講演では、溶接工程の自動化が生産性、品質、経営戦略に大きな効果をもたらすことが、ツガワの実例を通じて示されました。

これらの講演から明らかになったのは、精密板金業界のDXは、単なるデジタル化ではなく、現場力、データ、AI、ロボット、人材育成を組み合わせ、企業全体の競争力を高める取り組みであるということです。日本精密板金DX工業会では、今後も会員企業の実践事例や知見を共有し、業界全体のDX推進と競争力強化に向けた活動を進めてまいります。

配布資料

「精密板金の勝ち筋 2026」DX セミナー 当日プログラム

日時 2026年6月19日(金) 14:00~16:50
会場 ホテルカブキヤ
主催 一般社団法人 日本精密板金 DX 工業会

1. 開会挨拶・基調講演の背景 14:00 ~ 14:10
日本精密板金 DX 工業会 会長 岡部 浩章 様
岡部工業株式会社 取締役社長 岡部 浩章 様

2. 基調講演 14:10 ~ 16:10

① AI 活用による精密板金の未来構想について
日本精密板金 DX 工業会 副会長 森田 俊幸 様
森田工業株式会社 代表取締役社長 森 俊幸 様

② 生産管理システムの活用と成功のポイント
日本精密板金 DX 工業会 DX 推進部 理事 林 司 様
株式会社林製作所 代表取締役社長 林 司 様

③ ロボット活用による精密イノベーション
日本精密板金 DX 工業会 DX 推進部 部長 棚田 悦章 様
株式会社タカラ 板金生産部 部長 棚田 悦章 様

3. パネルディスカッション 16:10~16:45
精密板金工場の DX 推進、現場課題、今後の展望について、講演者之间で意見交換を行います。

4. 閉会 16:45~16:50

プログラム



提言
— AI (人工知能) 時代の勝ち筋戦略—自動化への挑戦
『提案型エンジニアリング工場™』への変革

2026年4月

1. 提言の背景
2. 精密板金業界の構造的課題
3. Bottom-Up IoT (現場主導DX)
4. Physical AI Factory
5. 製造データ統合基盤(AIプラットフォーム)
6. AIプラットフォームの概要
7. 製造AIの構築 (最重要)
8. AIエージェント
9. AI-Cyber Physical Factory
10. 結語

一般社団法人
日本精密板金DX工業会

©2026 日本精密板金DX工業会

提言 「提案型エンジニアリング工場」への変革

2026
第一回 レポート

JPSM-DX
ASSOCIATION

社団法人 日本精密板金工業会

2026 第1回レポート

日本精密板金DX工業会 第2回レポート
【業界構造変化と日本精密板金業界の未来】

2026年6月19日
日本精密板金DX工業会
高木 俊郎

はじめに

第2回の本レポートは、A社によるM&Aの公開情報をもとに、精密板金業界に与える影響を考察し、日本精密板金DX工業会の使命と精密板金の未来を考察する。

1.A社による「ビアメカニクス」買収が示すもの

2025年4月、半導体パッケージ基板加工装置メーカーであるビアメカニクスが、国内を代表する板金機械メーカー(A社)によって買収された。

買収金額は2510億円。
全株式買収による完全子会社化である。

ビアメカニクスは1968年設立。
本社が神奈川県厚木市。
2024年3月期連結決算は、
・従業員数 562名
・売上高 約433億円
である。

同社は、
・半導体パッケージ基板加工装置
・プリント基板加工装置
・高密度実装基板加工装置
・レーザー切断加工装置
分野で世界的な競争力を有している。

2026 第2回レポート

JINPAO動画 要約

JINPAOは、30年にわたる業務改善の歴史を、現在のハイエンドなニッチ市場への進出の基盤として位置付けています。

同社は、アジアに6工場、フランスに3工場と拠点を拡大し、グローバルなサプライチェーンを構築しました。

この物理的な拡大は、大規模なクラウドデータセンターと統合されたソフトウェアシステムを中心としたDXが構築されており、ペーパーレスかつインテリジェントな製造を実現しています。

このデジタルインフラは、同社が掲げる競争優位性、すなわち多品種少量のカスタマイズ製品とリアルタイム配送を伴う標準化された大量生産の両方を提供する能力の核となるものです。

航空宇宙、医療、グリーンエネルギーを主力であり、長期的な持続可能性には業務の卓越性以上のものが必須であるという認識を持っています。

戦略的機能と市場での位置付け

1. 運用基盤
同社の核となる能力は、グローバルな製造ネットワークと垂直統合された生産プロセスに基づいています。
・物理的拠点: アジアに7つの先進工場、フランスに3つの工場からなる計10つの生産拠点を設立し、グローバルなサプライチェーンを構築しています。
・プロセス統合: 製造はデジタル化されており、構造設計、金型開発からロボットによる自動化 (プレス、曲げ、溶接)、精密機械加工 (CNC、レーザーワーク、タージェット切削)、特殊処理 (ハイドロフォーミング、熱処理、塗装、表面処理)、最終組み立てに至るまで、製品ライフサイクル全体を制御しています。

2.DX: インダストリー4.0
DXを本格的に実現し、デジタル統合による運用システムを実現しています。
・中核情報システム: クラウドをベースに、電子署名、人事、財務、販売、在庫、スケジュール管理など、統合されたソフトウェアシステムを活用しています。
・実行層: 目標は、ペーパーレス、視覚化された業務目標を達成することです。
これは、問題解決と製品ライフサイクル管理のためのビッグデータ分析を統合することで実現され、同社は様々な国際認証と顧客からの賞賛を得ています。

JINPAO動画要約



aifaTKG

精密板金2030

未来は創るものだ

高木 俊郎
aifaTKG 編集

2026年 著 with ChatGPT / Claude

精密板金2030